

# 国立国語研究所学術情報リポジトリ

表紙, 目次, 中扉, 奥付, PDF版の説明

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2020-03-18 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.15084/00002685">https://doi.org/10.15084/00002685</a>

# 大規模方言データの多角的分析 成果報告書

## 一言語地図と方言談話資料

### PDF 版

このファイルは、下記の国立国語研究所共同研究報告の PDF 版です。

シリーズ名：国立国語研究所共同研究報告；12-05  
書名：大規模方言データの多角的分析 成果報告書  
一言語地図と方言談話資料—  
編者：熊谷康雄（編）  
発行：2013.3.31  
発行所：国立国語研究所  
ISBN 978-4-906055-25-8  
ISSN 2185-0127

1. この PDF 版は、印刷版の成果報告書のデジタル原稿を PDF 化して作成したものです。
2. 印刷版の成果報告書はモノクロですが、PDF 版はカラーです。  
デジタル原稿がカラーで用意されていたものは、カラーになっています。
3. 印刷版の正誤表にあった誤植は、PDF 版では訂正してあります。  
訂正箇所は、正誤表として、この PDF の末尾に掲載してあります。  
なお、新たに誤植が見つかった場合には、正誤表に追加し、同様に訂正します。

#### ■PDF 版の作成・更新の履歴

〔国立国語研究所 時空間変異研究系 熊谷康雄〕

更新：2013.4.16 正誤表を更新。2013.4.16 追加分の正誤訂正を反映

作成：2013.4.5

ISSN 2185-0127

国立国語研究所

共同研究報告 12-05

# 大規模方言データの多角的分析 成果報告書

## 一言語地図と方言談話資料

熊谷康雄（編）

2013 年 3 月

大規模方言データの多角的分析 成果報告書  
一言語地図と方言談話資料—  
熊谷康雄（編）  
国立国語研究所

この報告書のPDF版を本プロジェクト「大規模方言データの多角的分析」のホームページより公開する。  
URLは下記の通り。

<http://www.ninjal.ac.jp/research/project/b/daikibo/>

## 目次

はじめに	熊谷康雄	iii
目次		vii
1. 談話資料における間投助詞の地域差について	井上文子	1
(1) 相手への働きかけを示す助詞		
(2) 間投助詞の全国分布		
(3) 間投助詞の場面差		
(4) 関連項目 終助詞		
(5) 方言談話に現れる間投助詞		
(6) 地域間コミュニケーション・ギャップ		
(7) 印象と評価の背景		
2. 「昔語り」に現れる文末表現の地理的分布	日高水穂	13
(1) はじめに		
(2) 『方言文法全国地図』の分析		
(2.1) 伝聞表現の文末形式		
(2.2) 回想表現の文末形式		
(2.3) 伝聞表現と回想表現の文末形式の比較		
(3) 方言ももたろう」の分析		
(4) おわりに		
3. 大規模方言談話資料にみる受話法の地域差	沖裕子	33
(1) はじめに		
(2) 談話論からみる『ふるさとことば集成』の性格と活用		
(3) 受話法とは一本稿の目的—		
(4) 対象資料		
(5) 資料作成方法		
(6) 会話冒頭部における型の地域差		
(6.1) とりこみ型と直接型の対立からみた地域差		
(6.2) とりこみ型の出現率からみた地域差		
(7) 会話冒頭部における形式の地域差		
(7.1) あいづち型に含まれる形式の地域差		
(7.2) 接続詞・副詞型に含まれる形式の地域差		
(8) おわりに		

4. 用言準体法の分布と形式	大西拓一郎	59
(1) はじめに		
(2) 準体法の定義・位置づけ		
(3) 準体法の全国分布概観		
(3.1) 行く (の) だ		
(3.2) な (の) で		
(3.3) 植えた (の) に		
(3.4) ある (の) は		
(4) 中部地方における準体法の用法と分布		
(4.1) 準体法と非準体法の現れ方		
(4.2) 「するだ」と「するで」		
(4.3) コピュラの形		
(4.4) コピュラの連続		
(4.5) 一般名詞句の構成		
(5) 関連事象—ズラとラー		
(6) むすび		
5. 『日本言語地図』にみる牛の鳴き声のオノマトペ	竹田晃子	69
(1) はじめに		
(2) 動物の名称と鳴き声のオノマトペの関係		
(2.1) 牛の鳴き声と牛・子牛の名称の歴史的関係		
(2.2) 擬声語の分布が伝播かどうか		
(3) 『日本言語地図』の資料		
(3.1) 牛に関連する地図		
(3.2) もうもう (牛の鳴き声) の語形		
(3.3) 牛・子牛の鳴き声		
(3.4) 牛・子牛の名称		
(3.5) 鳴き声のオノマトペと動物の名称の関係		
(3.6) まとめ		
(4) 今後の課題		
6. 全国方言調査データから見た感動詞の地域差	澤村美幸	81
(1) 目的と方法		
(2) 調査の概要		
(3) 調査結果のデータベース化		
(4) 「暑さ」・「熱さ」・「辛さ」・「汚さ」に見る感動詞の地域差		
(4.1) 語幹 (●) と終止形 (／)		
(4.2) 感動詞の前接 (●) と前接なし (／)		
(4.3) 「その他 (●)」		
(5) 感動詞の地域差をどう捉えるか		

(5.1) 失敗の感動詞の地域差		
(5.2) 痛みの感動詞の地域差		
7. 孤例についての諸問題	澤木幹栄	93
(1) 孤例についてのこれまでの研究		
(2) 電子化された LAJ データによる研究		
(3) n 例の統計的分布		
(4) 孤例と 2 例を多く産出する地点		
(5) 2 例や 3 例はどれくらいの範囲に散らばっているか		
(6) 終わりに		
8. 言語地図にみる方言変化・共通語化 —LAJDB 編—	鏈水兼貴	103
(1) はじめに		
(2) 言語地図内の世代差		
(2.1) 言語地図とグロットグラム		
(2.2) GAJ での検討		
(3) LAJ の話者の世代区分		
(3.1) LAJ の話者の時代		
(3.2) LAJ における話者の生年分布		
(3.3) LAJ の話者の 4 区分		
(4) 考察		
(4.1) かたつむり (蝸牛)		
(4.2) うろこ (鱗)		
(5) まとめ		
(6) 今後の課題		
9. 『日本言語地図』のデータベース化と計量的分析 —併用現象、標準語形の分布と交通網、方言類似度の観察—	熊谷康雄	111
(1) はじめに		
(2) 『日本言語地図』データベース (LAJDB)		
(3) 『日本言語地図』データベースの計量的分析		
(4) 『日本言語地図』における併用現象の地点別集計の地理的分布		
(5) 『日本言語地図』における併用処理項目数の地点別集計の地理的分布		
(6) 『日本言語地図』における標準語形数の地点別集計の地理的分布		
(7) 併用現象、併用処理、標準語形の分布と交通網、ネットワーク法の観察		
(8) おわりに		
10. 共通語形の分布と伝播について	小林隆・熊谷康雄	129
(1) 考察のねらい—共通語形は伝播するか？		

- (2) 共通語形の分布-「併用処理」語形の復活
- (3) 共通語形の伝播-その伝わり方のメカニズム
- (4) まとめと課題-分布と伝播の諸相

1 1. 大規模方言分布データの構築に向けて -東北大学方言研究センターの全国分布調査-	小林隆	143
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 報告の趣旨</li> <li>(2) 消えゆく日本語方言の記録 <ul style="list-style-type: none"> <li>(2.1) 語彙項目を中心とした調査</li> <li>(2.2) 調査項目の方針</li> <li>(2.3) 調査方法</li> <li>(2.4) 資料の整理と分析</li> </ul> </li> <li>(3) 新しい分野の開拓 <ul style="list-style-type: none"> <li>(3.1) 表現法・言語行動に関わる分野の開拓</li> <li>(3.2) 感動詞〈感情系・感覚系・行為系〉を中心とした調査</li> <li>(3.3) 感動詞〈談話系 - 応答詞・声かけ・談話標識〉を中心とした調査</li> <li>(3.4) 表現法・言語行動を中心とした調査</li> </ul> </li> <li>(4) おわりに</li> </ul>		
1 2. 『日本言語地図』 データベースの概要	熊谷康雄	159
1 3. 『日本言語地図』 のデータベース化 (再録)	熊谷康雄	165
1 4. 共同研究発表会開催記録		175

## 『日本言語地図』 データベース

## 執筆者一覧

- 熊谷康雄 (国立国語研究所時空間変異研究系准教授)  
井上文子 (国立国語研究所時空間変異研究系准教授)  
大西拓一郎 (国立国語研究所時空間変異研究系教授)  
沖裕子 (信州大学人文学部教授)  
小林隆 (東北大学大学院文学研究科教授)  
澤木幹栄 (信州大学人文学部教授)  
澤村美幸 (和歌山大学教育学部講師)  
日高水穂 (関西大学文学部教授)  
竹田晃子 (国立国語研究所時空間変異研究系特任助教)  
鎗水兼貴 (国立国語研究所時空間変異研究系プロジェクト非常勤研究員)

国立国語研究所共同研究報告 12-05

大規模方言データの多角的分析 成果報告書

一言語地図と方言談話資料一

---

2013年3月31日発行

編者 熊谷康雄

発行 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国立国語研究所

〒190-8561 東京都立川市緑町 10-2

電話 042(540)4300(代表)

<http://www.ninjal.ac.jp/>

---

©国立国語研究所

ISBN 978-4-906055-25-8

ISSN 2185-0127

# **Analyzing Large-Scale Dialectal Survey Data from Multiple Perspectives**

Yasuo Kumagai (ed.)

March 2013

NATIONAL INSTITUTE FOR JAPANESE LANGUAGE AND LINGUISTICS

大規模方言データの多角的分析 成果報告書  
—言語地図と方言談話資料—

正誤表

ix ページ, 29 行目

(誤) 一併用現象, 標準語形の分布と交通網, 方言類似度—

(正) 一併用現象, 標準語形の分布と交通網, 方言類似度の観察—

81 ページ, 4 行目

所属が抜けているので所属を追加

(正) (和歌山大学)

159 ページ, 図 1

(誤) (調査項目数に対する割合に対する各処理段階の済んだ項目の割合)

(正) (調査項目数に対する各処理段階の済んだ項目の割合)

179 ページ, 13 行目

(誤) 貴／進行：井上文子，熊谷康雄

(正) 貴／コメンテータ：佐藤亮一（国語研名誉所員）／進行：井上文子，熊谷康雄

---

正誤表に以下を追加 (2013-04-16)

37 ページ 6. 1 節のタイトル

(誤) 直接型

(正) 直截型

44 ページ, 図の番号

(誤) 図 3

(正) 図 4

※上記は印刷版の正誤表。PDF 版では、上の正誤表に記載の誤植は修正済み

